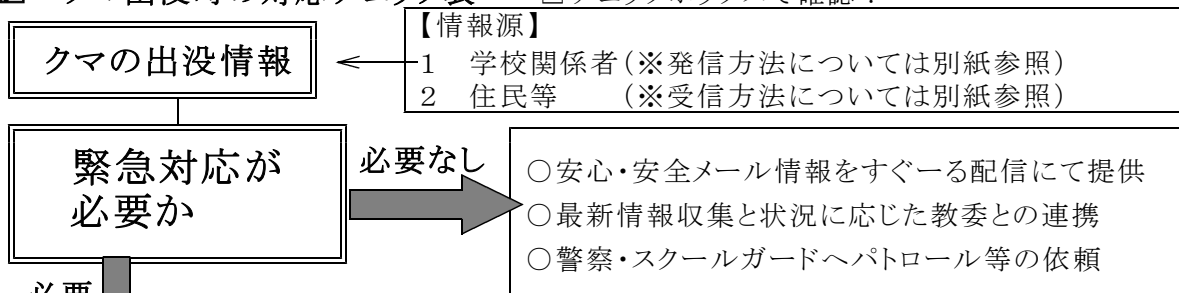


令和7年度 秩父市教育委員会 クマ出没対応マニュアル

☑ クマ出没時の対応チェック表 □チェックボックスで確認！



必要
 ○児童生徒の活動時間・範囲に出没し、危害を加えられる恐れがあると判断される場合

登校前	<input type="checkbox"/> 職員間の情報共有と対応の協議 ・臨時休業措置 ・登校時刻の繰り下げ措置 ・保護者送迎措置 <input type="checkbox"/> 関係機関への連絡(警察・市教委) <input type="checkbox"/> 通学路の安全確認 ・関係機関によるパトロール(市教委が依頼) ・職員による車での巡回 <input type="checkbox"/> 保護者への連絡(「すぐーる」配信) ・目撃情報があった場所等 ・保護者送迎、自宅待機等対応を指示 ・登校時の注意事項 <input type="checkbox"/> 登校中の児童生徒の対応 ・熊が近くにいると思って行動し、寄せ付けない、襲われないように対処 ※指導例参照 (※集団登下校・音の出る携行品・大声を出さない・石や棒を投げない等)
在校時	<input type="checkbox"/> 職員間の情報共有と対応の協議 <input type="checkbox"/> 児童生徒の安全確保と安全指導 ・児童生徒の所在確認 ・屋内への避難 ・校舎1階の施錠(状況に応じて窓の施錠も) ・屋外での活動の制限(体育、休み時間、部活動) ・在校時及び下校時の注意事項を指導 <input type="checkbox"/> 関係機関への連絡(警察・市教委) 【下校時の安全確保に向けた準備】 <input type="checkbox"/> 通学路の安全確認 ・関係機関(警察・スクールガード等)によるパトロール(市教委が依頼) ・職員による車での巡回 <input type="checkbox"/> 保護者への連絡(「すぐーる」配信) ・集団下校、引き渡し、部活動休止などの連絡 ・翌日の登校時の注意事項(クマ除け鈴、ホイッスル着用確認)
下校時	<input type="checkbox"/> 職員間の情報共有と対応の協議 ・下校の留め置き ・保護者へ引き渡し ・職員による巡回・付き添い等、全員の下校確認 <input type="checkbox"/> 下校後の校舎内施錠と校地内安全点検 <input type="checkbox"/> 下校中の児童生徒の対応 ・熊が近くにいると思って行動し、寄せ付けない、襲われないように対処 ※指導例参照 (※集団登下校・音の出る携行品・大声を出さない・石や棒を投げない等)
継続対応	<input type="checkbox"/> 保護者への連絡(「すぐーる」配信) ・最新情報の提供 ・翌日の登校方法と学校が実施する通学路の安全対策 ・休日等、校外での過ごし方の指導 ・市から配布したクマ除け鈴とホイッスルの着用を改めて依頼 ・不安を訴える子どもの確認と心のケア依頼

1 クマ(ツキノワグマ)の習性

- ・昼行性で、特に朝と夕方の薄暗い時間帯に最も活発に活動する。
- ・農作物や実のなる庭木などに通うことを覚えたクマは、人に見つからないよう、夜に活動することもある。
- ・警戒心が強いため、薄暗いところに出没しやすい。
- ・えさを求めて移動する。行動範囲が広い。
- ・嗅覚が鋭く、匂いにつられて移動することがある。
- ・臆病だが、驚かすと怖がって襲ってくることがある。
- ・自然界にない大きな音、音楽が苦手。

【春】冬眠から目覚める季節

- ・植物の新芽や山菜、筍を求める。

【秋】冬眠に備えて脂肪を蓄える季節

- ・活発に活動する。
- ・食べ物を探するため、夜も活動する。

【夏】子グマ→独り立ち、大人グマ→繁殖期

- ・山の中に食べ物が少ない季節のため、農作物などを狙って人里に出没しやすい。

【冬】冬眠の季節

- ・秋に十分な脂肪を蓄えることができないと冬眠が遅れることもある。

2 クマ(ツキノワグマ)が近くにいるサイン

- ・糞がある。色や形は食べ物によって変わる。
- ・足跡がある(横幅約10cm、指5本)。
- ・クマ剥ぎ(スギやヒノキの根元から2mくらいまでの樹皮を剥いだ痕跡)がある。
- ・クマ棚(樹上に折れ枝を集めたもの。クマが枝を折りながら木の実を食べた跡)がある。

3 各校における平時の対応策(例)

○保護者や関係機関と、クマが出没した際の対応を協議しておく。

- ・児童生徒への安全指導(下欄参照)とクマ遭遇時の対処訓練。
- ・関係機関との連絡体制(別紙参照)とパトロール等の依頼。
- ・商店や公共施設に有事の際の保護を依頼。
- ・保護者への情報提供と注意喚起。
- ・登下校時の対応→引き渡し、保護者送迎、集団下校など。
- ・屋外での遊び、体育、部活動の対応→状況に応じて室内の活動に切り替える。

○校地内にクマを近づけないための対策を講じる。

- ・実のなる樹木は早めに収穫。
- ・朝や夕方における屋外での活動の際に、音楽をかける等、クマが嫌がる音を出す。
- ・クマのえさになるようなものを放置しない。

4 児童生徒への指導(例)

○自分の身を守り、クマを寄せ付けないための方策

- ・登下校時に音の出るものを携行する(クマ除け鈴、ホイッスル、自転車ベル等)。
- ・食べ物を持ち歩かない。
- ・1人で行動せず、友だちと一緒に行動する。
- ・クマが近くにいるサイン(足跡等、上記2参照)を見つけたら、その場を離れる。

○クマに出会った際の対処法

- ・ゆっくりと後ずさりして逃げる。
- ・カバン等の持ち物を置いて、クマが気を取られている隙に逃げる。
- ・大声で叫んだり、石や棒を投げつけたりしない(クマが興奮するため)。
- ・商店や、公共施設に逃げ込み、保護してもらう。

○クマに襲われそうになった際の対処法

- ・両手を首の後ろに組んで、顔を伏せる姿勢をとる(頭や顔を守る)。